

週刊

GAINAX総監修ビジュアル・ガイドブック

新訂版

EVANGELION

CHRONICLE

エヴァンゲリオン・クロニクル

10

定価 **690円** (税込)

2010/4/13



Mechanic Sheet

第6使徒ガギエル

EVA電源装着トレーラー

Character Sheet

綾波レイ

Tactics Sheet

EVA人力起動

Timeline Sheet

アスカ、来日

Installation Sheet

ゲヒルン

Technology Sheet

パレットライフル

Extra Sheet

用語辞典 / 企画書 / トピックス



**特製バインダー
発売中!**

DEAGOSTINI

インターネットで
パーツをのぞく deagostini.jp

EVANGELION
CHRONICLE

10

目次 CONTENTS

【発行日】 2010年4月13日
 【発行】 株式会社デアゴスティーニ・ジャパン
 〒104-0045
 東京都中央区築地4-7-5 築地Kビル
 【発行人】 小河原和世
 【編集人】 クロス中山産子
 【チーフエディター】 安部 翠
 【印刷】 大日本印刷株式会社
 ©2010 K.K.DeAgostini Japan All rights reserved.
 【編集協力】 株式会社ウィーヴ（石川裕仁/田代 薫/大久保圭/本多らな）
 【監修】 株式会社ガイナックス
 ©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラー/EVA製作委員会

<オリジナル版>
 【編集協力】 有限会社 メガロマニア（富田英樹/高村泰敏/遠藤洋一/
 加藤和弘/山田康寛/森木貴章/鈴木秀治/公高直樹）
 TRAP（西川紗矢/遠藤智子/種子島貴/ぼろり春草）
 【執筆】 市川裕文/深野洋一(M.I.C.C)/木下とまけ/射尾康幸/鶴岡安希希
 【デザイン】 ローカル・サポート・デパートメント（島田英明/角田正明）
 株式会社 インフォビジョン（河野幹哉/安川純史/阿部将之）

<新訂版>
 【編集協力】 スタジオ・ハードデラックス株式会社（伊藤裕香/米良真一）
 【デザイン】 スタジオ・ハードデラックス株式会社（松本儀典）

- 書店向け注文受注センター
 （書店様からのご注文を承ります）
 ☎ 03-5212-5311
 （月～金 9:30～17:30 土日祝日を除く）
 ☎ 03-5212-5312
- 読者サービスセンター
 （本誌関連の一般的な質問を承ります）
 ☎ 0570-008-109
 （月～金 10:00～18:00 土日祝日を除く）

※本商品は2006年に刊行された「エヴァンゲリオン・クロニクル」
 （発売：ソニー・マガジズ）に改訂を加えて刊行するものです。

本誌の最新情報をCheck!

PCからもケータイからも同じアドレスでアクセスできます。

<http://deagostini.jp/eva/>



定期購読のご案内

週刊「エヴァンゲリオン・クロニクル 新訂版」は、毎週火曜日発売です（一部地域を除く）。シリーズ全号が確実にお手元にご届くように、書店を過ぎたの定期購読をお勧めいたします。最寄の書店で、定期購読または予約購読をご用命ください。また、小社を通じての定期購読を希望される方は、次のいずれかの方法でお申し込みください。

- 読者専用定期購読受注センターに電話またはFAXで
 ☎ 0120-300-851
 （9:00～21:00 年中無休）
 ☎ 0120-834-353
 （定期購読申し込み用紙をお送りください。24時間受付）
- インターネットで
<http://deagostini.jp/eva/> （24時間受付）
 ※ケータイからも同じアドレスでアクセスできます。
- 定期購読申し込み用紙を郵送
 （「定期購読のお知らせ」がお手元でない場合は受注センターまでご連絡ください。）

特製バンダー発売中!!

週刊「エヴァンゲリオン・クロニクル 新訂版」は特製バンダー4冊に収まります。エヴァンゲリオン大百科を完成させるのに不可欠な特製バンダー2・3巻の2冊セットを創刊特別価格990円（税込）で発売しております。お近くの書店でお求めください。

※新刊特別価格42010年6月5日までの期限限定となります。それ以降は通常価格1290円（税込）となります。
 ※4巻目のバンダーは第31号でプレゼントいたします。



下記特製バンダー（ボーナス）は、4巻目の、特製1冊のみになります。
 1. 各巻の巻頭の巻頭語。巻頭の巻頭語は、巻頭語。巻頭語は、巻頭語の巻頭語です。
 2. 巻頭語の巻頭語。巻頭語の巻頭語。巻頭語の巻頭語です。
 3. 巻頭語の巻頭語。巻頭語の巻頭語。巻頭語の巻頭語です。
 4. 巻頭語の巻頭語。巻頭語の巻頭語。巻頭語の巻頭語です。
 5. 巻頭語の巻頭語。巻頭語の巻頭語。巻頭語の巻頭語です。
 6. 巻頭語の巻頭語。巻頭語の巻頭語。巻頭語の巻頭語です。
 7. 巻頭語の巻頭語。巻頭語の巻頭語。巻頭語の巻頭語です。
 8. 巻頭語の巻頭語。巻頭語の巻頭語。巻頭語の巻頭語です。
 9. 巻頭語の巻頭語。巻頭語の巻頭語。巻頭語の巻頭語です。
 10. 巻頭語の巻頭語。巻頭語の巻頭語。巻頭語の巻頭語です。

Mechanic Sheet メカニックシート

第6使徒ガギエル

01-04

EVA電源装着トローラー

09-10

Character Sheet キャラクターシート

05-08

綾波レイ B

Tactics Sheet タクティクスシート

EVA人力起動

11-12

Timeline Sheet タイムラインシート

13-16

アスカ、来日

Installation Sheet インストールレーションシート

ケルリン

17-18

Technology Sheet テクノロジシート

19-20

パレットライフル

Extra Sheet エクストラシート

用語辞典

21-24

企画書

25-26

トピックス

27-32

新世紀エヴァンゲリオン オフィシャルページ

エヴァンゲリオンのリアルタイム情報はこちらで!

PCサイト

▶ <http://www.gainax.co.jp/anime/eva/>

携帯サイト▶ <http://wpp.jp/eva/>

エヴァンゲリオン オフィシャルスマホ

▶ <http://www.evostore.jp/>



第6使徒

ガギエル

海中より襲来せし
巨躯の使徒



Illustration by Hirofumi Inokawa



UNKNOWN

SIXTH ANGEL

GAGHIEL



水中に不対応のB型装備にて運用された武号機は、海中で満足に動けず、ガギエルに喰いつかれてしまう。その牙はEVAの胴体を容易に貫通して武号機を口腔内に捕らえた。



口腔内に戦艦の主砲を直接浴び、弱点であるコアもちも体を粉砕されたガギエル。EVAとの共同戦艦とはいえず、国連軍の通常兵器によって撃破された唯一の使徒である。

前面 FRONT



何故沈まん!!

(オーバー・ザ・レインボウ艦長)

背面 BACK

海中に適應した6番目の使徒

多様な環境に適應する可能性を持つ使徒。その中でも海中活動に特化したタイプがガギエルである。海上の相手を襲撃するために有利な姿を採択した結果が、この水棲生物のごとき形態だと考えられよう。

攻撃手段は直接的な体当たりとかみつき程度しか持たないものの、水中における機動性とA.T.フィールドによる防御力は人類の持つ通常兵器を寄せ付けぬ強固さを誇る。また、単純な物理攻撃とはいえ十分な威力を持ち、水中というフィールドにおいてEVAをも圧倒した。しかし、その力もヒトの知恵が編み出す奇策によって打ち破られることとなる。

EVA武号機とセカンドチルドレンを日本へ移送する、国連軍太平洋艦隊を襲撃したガギエル。

ル。その際に起動した武号機を得意の水中へ引き込んだものの、そのことが仇となり、武号機によって開かれた口腔内に戦艦からの零距离射撃を受け殲滅されてしまう。

ユダヤ、キリスト教神秘主義ではガビエルともいわれ、第6天の守護天使であり、四季の夏を司る天使とされる。なお、魚を司る天使ともされ、まさにその名の通り水中を自在に泳ぐ使徒であった。



第10使徒サハクエルと並び、使徒の中でも最大級の巨体を誇るガギエル。その大きさを武器に太平洋艦隊と武号機を襲う。

DATA

呼称：6th ANGEL

第6使徒

天使名：GAGHIEL

ガギエル

象徴：SYMBOL

魚

能力：ABILITY

体当たり
かみつき

関連事項 RELATED MATTERS

- 国連軍太平洋艦隊
- 旧伊東沖運通戦
- EVA武号機
- 使徒
- アダム



空母オーバー・ザ・レインボウを旗艦とする国連海軍。空母5、戦艦4を有する大艦隊だが、ガギエルには無力だった。

ガギエルの体構造

海という環境に適応を遂げた生物的な身体を備える。手足のない体は水棲生物に見られる特徴であり、ヒレらしき部位を持つ。このヒレの配置は魚類でも海棲哺乳類のものでもない独特のもの。また、トビウオのように海面へ跳ね上がる動作も見せる。

1 顔と思しき部位

第3使徒サキエルの胸にも見られる、顔と思しき部位と同様のものがガギエルにも存在する。これは、全部で17体とされている使徒のうち2体の、(コア以外の)数少ない共通点といえよう。ただ、器官としての用途は不明。



口の上部にあるが、顔としての役割を果たしているかどうかは定かではない。

側面

SIDE



上面

TOP



←EVA式号機
対比

2 巨大なあごと口腔内のコア

ワニを思わせる長大なあご、無骨な歯を持つその口はガギエル唯一の武器らしい器官といえる。また、潤点のコアは口腔内の奥であり、体内に持つことで安全性を高めている。



一くちばしのように見えるが、ワニのごとく歯がひびひびりと牙が生えている。

海中に落ちた式号機に食いつくようにするガギエル。その口腔内には、舌のほかには潤点のコアが確認できる。

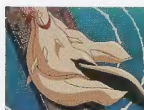


←あご部分正面

↓口腔内の
コア

3 長大な体躯

巨体はそれだけで大質量の武器となる。その体躯を用いた体当たりで次々と艦隊を轟沈せしめた。驚異的な機動性も誇り、ヒレでの推進だけでなく、MHD(磁気流体)もしくはEHD(電気流体)などの推進能力を兼ね備えているとも考えられる。



巨体ながら機動性は高く、磁気圏やASROCといった遠程兵器ではガギエルを扱えきれなかった。



ガギエルの活動記録

ドイツ式号機とセカンドチルドレンを移送中であった国連軍太平洋艦隊を、旧伊東沖にて奇襲したガギエル。艦隊との戦闘中、起動した式号機を察知して同機へと襲いかかった。その際に海中へと落ち、動きの鈍った式号機に喰らいつくが、口腔内にくわえたままの同機によってA.T.フィールドの中和を受けつつ、口をきけ閉られる。そこに自沈した戦艦2隻の突入を受け、零距离射撃と直後の自爆によってガギエルは体内から破壊、殲滅された。なお、通称「旧伊東沖遭遇戦」と名付けられたこの戦闘により、国連海軍は全艦隊のおよそ1/3を失っている。



護衛駆逐艦シンペリンを皮切りに、次々と太平洋艦隊の艦隊を襲うガギエル。その驚異的な機動性による被害は深刻であったという。



ふたりの連絡者により式号機はガギエルの口をきけ閉められるほどの力を発揮。戦艦2隻による16インチ弾12門の齊射を受け殲滅された。

ガギエル侵攻記録

旧伊東沖にて
国連軍太平洋艦隊を
襲撃

EVA式号機と交戦

活動停止
零距离射撃によって

ガギエル殲滅



ガギエルの襲撃目標

使徒は「アダムとの接触」を目指すとされる。しかしながら、ガギエルはアダムが離開されているという第3節東京湾ではなく、式号機を移送中の太平洋艦隊を襲撃した。これは「アダムのコピー」とされるEVAを狙った行動だと理由付けすることができる。しかし、艦隊に同乗する加持リョウジが所持していた「炭化ペークライト」で封印された胎児のような物体もまた「アダム」と呼ばれており、本命は後者だったという可能性が高い。これが真のアダムであったとすれば、ガギエルはアダムに最も近い使徒といえよう。



加持が運んだドラックの中には、炭化ペークライトと呼ばれる生物の姿があった。



↑EVA式号機

キャラクターシート

Character Sheet

綾波レイ

Sheet

02

REI AYANAMI B



EVAの
操縦に



NERV



1st Children

綾波レイ

REI AYANAMI

絆を
求める少女



Illustration by Youichi Fukano

個人情報

名前	綾波レイ
年齢	14歳
国籍	不明
生年月日	不明
血液型	不明
所属	NERV/EVA零号機専属操縦者

最初EVA操縦資格者であり、プロトタイプたるEVA零号機を操る少女、綾波レイ。戦闘における彼女のポジションは、基本的にはサポートやバックアップがメインとなる。プロトタイプ故にデリケートな部分が多く、また、装備できるオプションも少ない零号機を扱っているという理由も当然あるのだろうが、彼女の性格的なものもいづらか影響しているように思われる。他人との絆を守ることが第一とする彼女は、意識しているかどうかは不明だが、守備的な役割を求めているのではないだろうか。ここ初期の戦闘においては、使徒に対し零号機が直接的な攻撃を仕掛けている場面はほとんど見られない。しかし、後になってレイには特攻的、自爆的な行動が増えていく。しかしこれも、絆を守ろうとするが故の行動であると推測できる。

「私が死んでも、代わりはいいもの」そう言い切ることのできるレイは、一見ただ投げやりになっているようにも見え。しかし、彼女にとってそれはただの事実でしかない。だからこそ、自らの生命を顧みないことをせず、どのような危険な事態にも立ち向かっていくことができてしまう。レイのクラスメイトの相田ゲンスケは、その個人資料において「綾波は自分の存在を希薄に感じているように見える」「ベシムズとも違う何かを彼女は既に持っている」等と彼女を称していた。これらは綾波レイという存在を端的に言い表した言葉であり、卓見であるといえるだろう。悲観的なのではなく、ただ、その存在が希薄な少女、それが綾波レイなのである。

表情



一対使徒戦において、レイは普段より表情を変化させることが多し。特にこのような、険しい表情が多く見られる。それだけ任務に懸命に当たっているということである。

「いつもどおり、無表情な様子のレイ。しかし、はっきりとした表情の変化が見られなくとも、眉間に隠れた彼女の瞳には、強い意志が宿るように感じられる。



→EVAと神経接続がなされている際には、EVAへの攻撃は全て自らの身体への痛みとして感じる。それは想像を絶するものであり、表情を変えようとしないレイでも、その痛みには顔を変えられるようである。



第15使徒アラエル戦でロンギヌスの槍を投擲する際のレイ。失敗の許されぬ瞬間では厳しい表情を見せることもある。

ブラグスーツ

レイがEVAに搭乗する際に着用するブラグスーツ。スーツ、インターフェイス、ヘッドセット共にカラーリングは白がメインとなり、彼女の無機質なイメージと合ったものとなっている。また、さし色のように入った深い青も、合わせてレイの深層心理にある光と水のイメージを想起させるカラーといえよう。

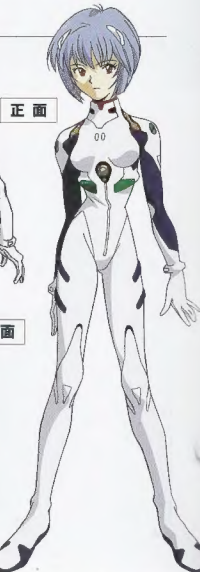
背面アップ



側面

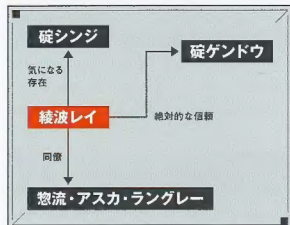


背面



正面

人物相関図



関連登場

- EVA零号機
- 破ゲンドウ
- 破シヅジ
- NERV



綾波レイが専属操縦者となるEVA、プロトタイプのため、最終のスペックは初号機や二号機に劣り、装備の規格も異なる。

キャラクターシート

Character Sheet

綾波レイ

Sheet

02

綾波レイ

の戦闘記録



一零号機の起動実験失敗事故により全身を修復したレイ。シンジが初号機に乗り使徒と戦うことを拒否した際、レイはこの状態で初号機に乗って出撃しようとした。結果それが、シンジの初号機搭乗を決定させることにつながる。

一レイの乗る零号機。第5使徒ラミエルの加粒子砲で大破した後、その損傷の復旧作業と共に、全体的な換装が施され、式号機と同様のものを装備することとなった。また機体色も山吹色から青へと変更されている。



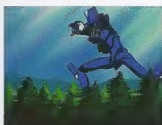
手にしていた盾だけでなく、その機体を溶解するまでラミエルの攻撃に耐え初号機を守ったレイ。そこには初号機を守るという任務に対する、強い決意が感じられる。



ゼルエル戦において捨て身の攻撃に出たレイだが、そのころでコアが防御されたために失敗に終わってしまった。彼女の生存は不仲の幸だったといえるだろう。



レイの搭乗する零号機の実戦投入は、初号機からは幾分遅れてのこととなった。これは、最初の起動実験が失敗に終わり、その際にレイが損傷を負ったためである。零号機初の対使徒戦は「ヤシマ作戦」と称される第5使徒ラミエルの決戦であった。この内容は零号機と初号機が狙撃地点に移動、初号機がボルトロンスナイパーライフルによる砲手を担当、零号機は超電磁コーティングされた盾を持ち防御を担当するものであった。初号機は一度目の狙撃では失敗するものの、第2撃で撃破。零号機がその身を挺してラミエルの加粒子砲から初号機を守ったことが、この戦闘の勝因となった。その際の機体大破でしばらく零号機の起用はなく、次の戦闘は第9使徒マトリエル戦となる。この戦闘でも零号機は落下したバレットライフルを拾うというサポート役に回っていた。その後、第10使徒サハウィエル戦、第12使徒バリエル戦、第13使徒バリエル戦と出撃しているが、目立った戦績はない。特記すべきは第14使徒ゼルエル戦であろう。この戦闘において、レイはM弾を持ち、ゼルエルのA.T.フィールドを中和して直接そのコアを狙うという攻撃に出ている。これは、それまでの戦闘には見られなかった積極的な行動である。これ以降、拘束を失った初号機の凍結に加え、式号機の操縦適格者であるアスカの不調もあり、レイの乗る零号機は前線での戦闘に参加する機会が以前より増えていくこととなる。



対ゼルエル戦では、左胸を損傷した零号機で最強の使徒の向かい出撃したレイ。明らかに勝算の低い状態での出撃も、彼女は少しもためらうことはない。



零号機の機体が溶けるのを見て、マトリエルの溶解液にいち早く駆けつけたのはレイである。戦闘時において、彼女が冷静な判断力を持っていることがわかる一場面だ。

第5使徒ラミエル戦において、盾の耐性の限界を超えても初号機を守ろうとしたという事実のほか、第9使徒マトリエル戦で、その溶解液から初号機を守るディフェンス役に回ろうとするなど、レイは危険な任務を買って出ようとする傾向がある。それは、絆を守ろうとする彼女がほかの操縦適格者を気遣っている故のことなのか、それとも自らの存在を希薄に感じている故のことなのかは不明だ。しかしどちらにせよ、彼女のような存在があつてこそ、EVAチームは何度も使徒との戦闘を乗り越えることができたといえる。レイは、サポートや守衛を務めるものとして、最適の人材であるといえるだろう。

EVA 零号機 操縦適格者 としての存在

EVA

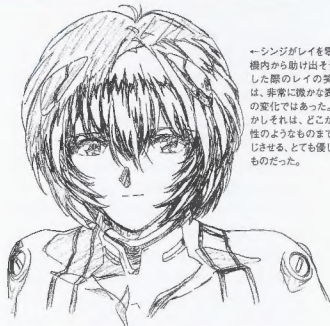
に乗る理由



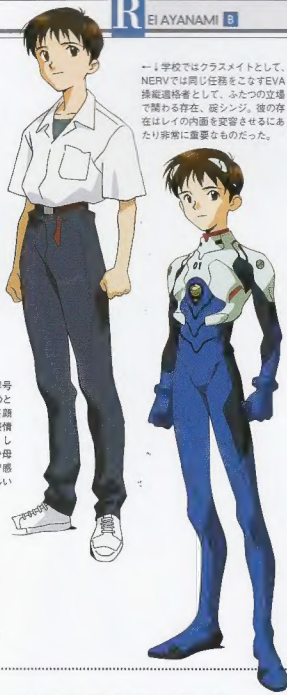
死ぬかもしれないと覚悟になるシンジに、自分が守ると言い切るレイ。シンジの絆もイイトって守るべきでもある。

レイはシンジにEVAに乗る理由を問われた際、「絆だから」と答えている。それは、絶対的な信頼を置くNERV総司令、碇ゲンドウにだけではなく、皆に対しての絆だと言う。他人に興味を持たないように見えるレイの、意外な発言である。それに加え、レイはEVAに乗ることが自らの全てだと言っている。それは彼女が、他人との繋がりを持つことのできる手段をそれしかないという意味なのかもしれない。戦うこと、与えられた任務をこなすこと、誰かを守ること——それらにより、レイとほかの操縦適格者やNERV職員といった他人との関係が生まれる。そして彼女は、絆を深めていくのだ。

適格者 碓シヅ との関係



→シヅがレイを番号機内から助け出すとした際のレイの笑顔は、非常に淡く表情の変化ではなかった。しかしそれは、どこか母性のようなものまで感じさせる、とても美しいものだった。



→1号機ではクラスメイトとして、NERVでは同じ任務をこなすEVA操縦適格者として、ふたつの立場で関わる存在、碓シヅ。彼女の存在はレイの内面を突き刺さるに当たり非常に重要なものだった。

レイと同じ選ばれた適格者であり、初号機の専属操縦者である碓シヅ。当初、レイは彼女に対してあまり興味を示している様子ではなかった。しかし、ヤシマ作戦前後になって、レイはシヅに対しての認識を変え始める。特記すべきは第5使徒ラミエル撃破後のシヅとの会話である。この際、レイはシヅの「笑えばいいと思うよ」という発言に対して笑顔を見ている。レイがシヅをゲンドウと重ね合わせた故とはいえ、これは、以前と比較して大きな変化であるといえる。この後のレイには、任務の際だけではなく学校生活の中などでも、わずかながらもシヅのことを気にかけ、後の発言に表情を変化させるような場面が増えていく。また、シヅがレイの部屋を訪れた際に乱雑な部屋を片付けてくれた時、彼女は赤面しながら「ありがとう」と言う。この感謝の言葉は、ゲンドウに言ったことのないものだった。これは、レイの中でシヅの存在がゲンドウとは別個のものになっていったという証ではなだろうか。



シヅに対して言った「ありがとう」という感謝の言葉を返すもレイ。この頃の彼女は、以前には見ることのできなかった人間的な表情が多くなっていく。



アスカに忠告をするレイと、それに対し激昂するアスカ。ふたりの会話らしい会話は、これが最後であった。

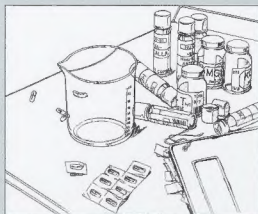
式号機の専属操縦者である惣流・アスカ・ラングレー。彼女とレイのふたりが交わる機会は極めて少ない。これは、アスカがレイをひどく嫌っていることが原因といえよう。ただ、アスカが自信を喪失し、不調を来している際に、「心を聞かなければEVAは動かぬわ」と、レイの方からアスカに話しかけている。レイにはアスカの不調の原因がわかっていたのだろう。全てに対して心を閉ざしたアスカが、再度EVAを動かせるようにと語りかけたものと思われるが、この発言はアスカを不快にさせる結果に終わってしまった。このふたりの適格者が相容れることは、結局ないままであったようである。

適格者 惣流・アスカ・ラングレー との関係

▶ 特記事項

肉食主義者の意味

あまり食品等に関してはこだわりを持っていないように思えるレイであるが、その実、肉食を嫌い、肉食主義を貫いているらしい。これは、おそらく彼女が育ってきた環境が影響しているものと思われる。彼女が育ったとされる、セントラルドグマ内の人工進化研究所3号分室は、コンクリートがむき出しになった内装に加え、床にはビーバーや薬品の瓶が散乱している。これは、レイの現在の住居であるマンションの一角と酷似した、無機的で光と水のイメージが強い環境である。こういった場所で長い間ずっと育ててきたために、レイは血や肉といった、有機的、生育的なイメージを想起させるものを忌避しているという可能性も、肉嫌いの要因のひとつと考えられよう。

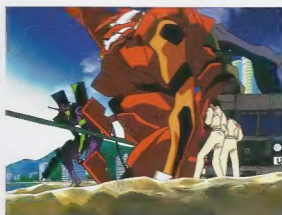


薬品の置かれた3号分室。薬を常用しているレイには、受け付けられないような物もあるかもしれない。



ラーメン屋の居間で、レイは「ミニエッグとメンチシュー焼き」を注文する。チャーシュー程度のわずかな肉も避けたようだ。

ミサトの家に招かれたレイ。彼女の口癖に「ウーロン茶が注がれていない」ことを見るも、お茶系の飲み物は大丈夫らしい。



EVA電源装着トレーラー



EVAの電源供給をサポートする 大型トレーラー

建築や土地整備の発展過程において、作業効率を飛躍的に向上させたものが重機である。

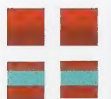
多種多様な建設重機を保有しているNERVにおいて、戦略、戦術的な理由から14式大型架橋自走車のように本来の用途とは別の目的で運用されることも珍しくない。そのほか、改良を施されて特殊な作業に用いられる重機もある。特にEVA電源装着トレーラーがよい例であり、野外におけるEVAのサポート車両の中でも特殊な役割を担う。基本はクレーンを搭載した大型のトレーラーであるが、EVAにアンビカル・ケーブルを装着するため、アームの先端が特殊な仕様になっている。また、EVAに電力を供給するための電源車とのセット運用が前提であり、これらEVA用重機の運用から、EVAに関する装備や人員の多様性が垣間見よう。

なお、フロントグリルのエンブレムおよび「FUSO」の文字から三菱ふそう製と思われる。



アンビカルケーブルを装着したEVA電源装着トレーラーの運用シーン。背景はNERVの建設現場。

第1号機はイミダスエールを駿河湾で追撃する際に運用されている。



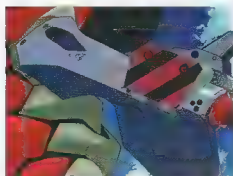
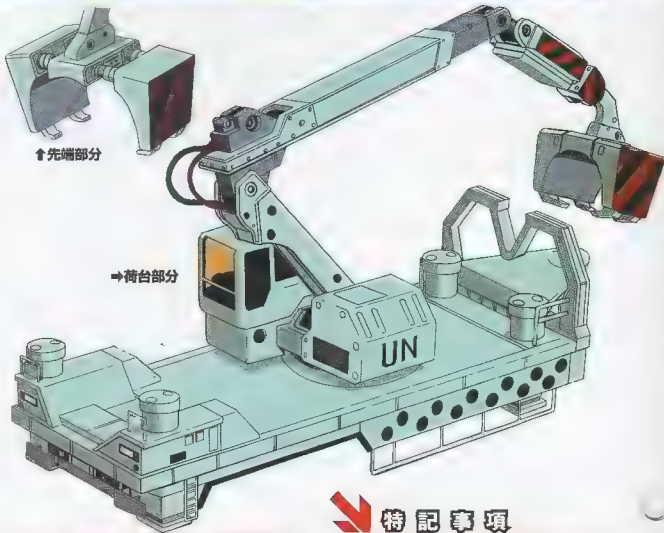
NERV

Power Supply Installation Trailer

構造と運用

第3新東京市外でEVAを運用する際に欠かせない特殊車両。国産で制式採用されている車両を改造し、EVAの電源装着を目的として運用されている。

牽引車部分はダブルタイヤ仕様の6輪車で高い安定性を誇る。トレーラー部分は、低床タイプ3軸(6輪)の安定した荷台に旋回サークル式のクレーンを持つタイプで、クレーン操作も荷台から行なう。また、アームの先端は開閉式となっており、物を掴む動作が可能である。一見、汎用性は低いように思えるが、先端部の交換により様々なクレーン作業が可能である。なお、荷台にはアンビリカル・ケーブルを置くためのV字型の支柱が設けられており、EVA専用の特殊車両だとわかる。



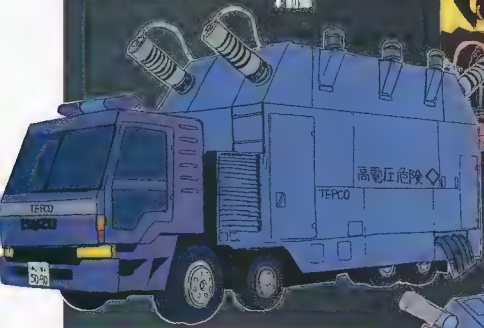
アンビリカル・ケーブルの取付部を後ろより取り囲むように設置し、CMAのようになり、荷台からクレーン操作も可能である。

// 追加報告 //

特記事項

EVAの稼働電力を供給するNERV電源車

発電機を搭載した車両が電源車であり、野外においてアンビリカル・ケーブルに電力を供給する役割に用いられる。トラックが改造された名目ではあるが、自動車製と異なり、車体には「TERPGO (Tokyo Electric Power Company) である」と偽り、東京電力所有のNERV専用とするが、本で運用されていると思われる。運転は電源装置トレーラーとセットで運用されるが、この作業の際は、必ずしもアンビリカル・ケーブルの電力供給車として高田まで来た。



第3新東京市の各所には、電力供給用のNERV専用電源車EVA3号機の設置場、新田山にて電線交換を断行し、電源車が運用された。

アンビリカル・ケーブルと第3新東京市の電源ビル

EVAの稼働には莫大な電力が必要であり、その供給はアンビリカル・ケーブルも介した外部電源によって賄われている。第3新東京市では電源ビルにより電力供給されるが、野戦によりEVAが遠征する場合、電源車と電源装着トレーラーが必要不可欠となる。



■アンビリカル・ケーブル

第3新東京市の各所には、アンビリカル・ケーブルを運ぶためのケーブル車も多数用意されている。

関連事項

- 第7使徒イスタフェル
- 第13使徒バルディエル
- ヤシマ作戦
- アンビリカル・ケーブル



綾河浦から上陸した第7使徒。これを水際で迎撃すべく遠征したEVAのため、電源供給トレーラーが運用された。



最新のプロトタイプによって建造された汎用人型決戦兵器「ヴァンゲリオン」。しかし、それを稼働させるには、文明の血をたぎる電力の供給が必要となる。NERV本部に対する電源停止ゼロト時を合わせるかのように出現した第9使徒。かつてないほどの危機的な状況下においてNERVは、司令官の指揮の下、人力でEVAを起動させたのである。

予断せぬテロと、使徒の襲来

同胞によるテロに対する、 NERVスタッフの奮闘

TACTICS SHEET

使徒との戦闘を前提に組織され、第3新東京市と汎用人型決戦兵器「ヴァンゲリオン」を擁するNERVは、軍事組織に準じた耐迅性、冗長性をもって運用されている。しかし、あらゆる組織がそうであるように、必然的に人的、物的な限界が存在する。

戦闘や作戦行動では、常に機材や燃料などが消費される。そのため、ほとんどの軍事組織では、予備機材と補給経路を確保すると共に、機材の耐迅性、冗長性を拡張することに努めてきた（冗長性とは、この場合は機材の拡張性の高さを示し、状況やテクノロジーの変化に対するマージンとしても機能する）。しかし、資金や資材、技術などのリソースが有限である以上、そこに限界があることも、また事実である。

例えば、NERVのメインコンピュータである「MAGI」は、メルキオール、バルタザール、カスパーの独立した3ユニットにより構成されている。しかし、相

互にバックアップすることを考えた場合、その数は必要最低限でしかない（これを回避するために外部へのバックアップなども用いられる）。また、基地施設へのテロ行為——第9使徒の攻撃と前後で発生したような破壊工作——に対しても、バックアップをはじめとする外部との連携が必要となる以上、完全な防御策を講じることは極めて困難である。これはMAGIだけではなく、使徒殲滅の要でもあるEVAについても同じことがいえる。通常の保守点検にすら莫大な資材を必要とするEVAは、NERV単独で維持できるものではない。特に、EVAの起動に必要な電力については、ジオフロントから供給されるだけであり、「電力が供給されない」という状況に対する措置は取られていない。これはほかの組織との連携を最小限にとどめる、NERVの特殊性によるところが大きいと考えられる。しかし、組織の機密性を保持するためとはいえ、不測の事態に対してNERVはあまりにも脆弱であった。これはNERV本部機能の停止と同時に発生した第9使徒の襲来でも証明されることとなった。

使徒の出現と、その行動は戦略自衛隊による警戒網とNERVスタッフの機転により、比較的速やかにNERV本部に知らされた。しかし、この時点で、NERV本部の基地機能は回復しておらず、本来であれば戦闘の回避や基地の放棄を行ってもおかしくない状況であった。この状況下においても使徒の殲滅を最優先にした司令官は、人力によるEVAの起動を命令したのである。彼はケイジに向かうと、陣頭指揮を執っただけではなく、自ら発進準備作業も行なった。彼らは限られた資材を用いて、EVAの出撃シークエンスを人力により完遂すると同時に、NERVは組織としての脆弱性を、スタッフのマニパレーによりカバーしたのである。

RELATED MATTERS

設定ドキュメント
エヴァンゲリオン
アンビカル・ケール
第9使徒マリエル
NERV



NERVの司令官。EVAの人力起動にあたり、陣頭に立って指揮を執った。

NERV 3 エヴァの起動

電力の供給停止と停電の懸念により、NERVはかつてないほどの危機に直面した。しかし、NERVのスタッフは最小限の機材しかない状況でEVAを起動させるため、自分たちの持つ能力を最大限に発揮し、この危機を乗り越えたのである。

1 停止信号プラグの排出

格納中のEVAを停止状態にするための停止信号プラグを人力により排除。チェーンブロックによるウィンチを現場で急造することで対応した。



停止信号プラグの排除作業は、停止信号プラグを人力で取り除く必要がある。

NERVのスタッフはそれぞれの実務におけるエキスパートである。停電による基地機能の麻痺、そして使徒の襲来という非常事態の中で、彼らの持つ能力を発揮させた碓司令の指揮能力には驚嘆せざるを得ない。しかし、真に特筆すべきは、最小限の機材だけで、EVAを起動させたNERVスタッフの技術力にあるといえよう。

2 エントリープラグ、挿入準備

TACTICS SHEET

その後、エントリープラグを手動によって固定位置へと移動。停止信号プラグと違い、適正な角度での移動と固定が必要となるために、観測員の指示のもと、作業が行われた。



挿入時の位置と角度は、ある程度、スタッフに経験的にある程度、調整が必要である。

3 非常電源による起動

TACTICS SHEET

操縦者の搭乗したエントリープラグが機体へ挿入され、EVAが起動した。起動に必要な電力は「非常用バッテリーセル」によって発電されたものである。この機材は、EVAの起動用に設置されていたものだったようだ。



非常電源は、EVAの起動に必要な電力を供給する。この機材は、EVAの起動用に設置されていたものだったようだ。

4 拘束具を強制除去、EVA出撃

TACTICS SHEET

第一ロックボルトを解除したことで、排除可能になった拘束具をEVAが自力で除去。これでEVAは全ての作業シークエンスを完了した。

出撃準備を完了したEVAは胸部パイロンに非常用バッテリーを装着した後、出撃した。バッテリーの装着は通常の整備用クレーンを使って行われた。



大量の拘束具の除去はEVA自身が行った。

バッテリーを装着し、内蔵電源と合わせて十数分程度の活動時間が確保された。

5 第一ロックボルトの解除

TACTICS SHEET

整備スタッフが斧を用いて、油圧パイプを切断。油圧によって固定されていた第一ロックボルトの2番から3番までがフリーとなった。



第一ロックボルトが解除されたことで、EVAは移動可能となった。

特記事項

停電下におけるEVA操縦者の行動

ジオフロントが停電した際、3名のEVA操縦者は、通常任務の一環としてNERV本部へ出陣する途中であった。最終の乗乗者を知る前から、本部内への到着を減少していたのは、操縦者としての高い感度の衰えが原因の裏切られたものからしている。



「操縦者としての感度の衰えが原因の裏切られたものからしている。」

技術調査

非常時におけるEVAの起動手順

電源が完全に停止した状態でのEVAの出撃は、NERVも想定していなかった事象が考えられる。そのため、ジオフロントで設立した電源は起動用の予備電源と、EVAの電源設備部門ではEVA用の電源

運用したとも考えられる)のものであった。出撃準備は碓司令の指揮の下、整備スタッフが急造した装置を使用して行われた。最終の「非常電源」は知識と応用力を発揮した乗乗者スタッフであった。



電源が完全に停止した状態でのEVAの出撃は、NERVも想定していなかった事象が考えられる。そのため、ジオフロントで設立した電源は起動用の予備電源と、EVAの電源設備部門ではEVA用の電源

A.D.2015

●佐世保港沖

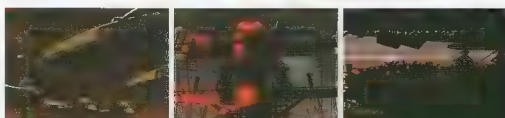
01

アスカと加持、日本へ接近
新たなEVAパイロットが日本に向かう

満月の夜、太平洋上を新機体へ向かう国連軍太平洋艦隊。その艦上ではアスカが加持リョウジと言葉を交わしていた。「あー、明日にはもう日本か。お昼にはミサトが迎えに来るって言ってたし。ちやうど、加持まんともしばらお別れね。つまらないの!日本に着けば新しいボーイフレンドができるさ。サードチルドレンは男の子だって話だぞ!ぼやくアスカを加持は軽くいなす。だがアスカは、自分が好きなのは加持だけと言い張った。



自分の腹をにじり込ませる。お昼にはミサトがアスカの迎えに来る。アスカは嬉しそうに話しているが、加持は軽くいなす。



月の輝く太平洋上を静かに進む太平洋艦隊。ドックで完成した次号機とパイロットのアスカをNERV本部に引き渡すのがその目的である。艦には多数の艦載機も搭載されており、有事の際は大規模な護衛を手はずらなくなった。

A.D.2015

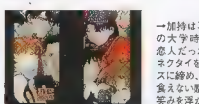
04

加持、ミサトとの親密な過去を匂わせる

加持を加えたミサトたち一行は食堂で休憩を取ることにした。「なんであんたがここにいるのよ!」彼女の隣でね。ドイツから出張さ!つっけんどんなミサトにしれと答える加持。シンジがミサトと同居していることを知っていた加持は、「彼女の夜相の悪さ……進ってる?」などと過去の親密な関係を匂わせるセリフを吐いて一同をギョッとさせ、一方のミサトはこれは悪夢だと顔を抱えるのだった。



「なんであんたがここにいるのよ!」アスカはミサトの悪口をいかにいっているのか、ミサトは顔を赤らめていた。アスカは嬉しそうに話しているが、加持は軽くいなす。



一加持はミサトの大学時代の恋人だった男。セウタをアスカに締め、美に食えない感じの笑みを浮かべている。

職員休憩のエレベーターで移動する一室。ミサトは加持のこぼれげい、頬で頬を打つが、

2015年

アスカと加持、太平洋艦隊の護衛で日本へ接近

ミサト、シンジたちを連れて太平洋艦隊に向向

シンジ、アスカと出会う

トウジ、アスカから平手打ちを喰らう

●太平洋上

03 ミサト、太平洋艦隊司令と面会

ミサトたちは艦隊司令に挨拶をするが、司令はEVAをさんざん皮肉つたうえに、海上では式号機もパイロットも自分の管理下にあると言い放った。おとなしく引き下がりがつても、有事の際の指揮権はNERVにあることを強調するミサト。だが「相変わらず謙かしいな。不意にかけられた声に振り廻り、顔色を一変させた。セリフの主はミサトの元恋人、加持リョウジだった。

「太平洋艦隊司令はEVAを自分たちで操る、その力に不自信を持っていた。」



加持の登場……あからさまに懐きつな鎖つきになるミサト。彼女がこの再会を歓迎していないのは一目にも明らかだった。

●太平洋上

07 アスカ、出撃準備をはじめ

姿の見えない敵の攻撃に艦隊が混乱するなか、ミサトは使徒に対抗できるのはEVAだけだと宣言する。だが艦隊司令は聞く耳を持たずに即撃を指示した。とはいえ使徒に通常兵器が通用するはずもなく、爆炎を上げた艦が「まっつ沈んでいく。」「この程度じゃA.T.フィールドは破れないか……」戦闘を眺めながらつづく加持。一方のアスカはブラクスーツに着替はじめていた。独断で式号機を起動しようというのだ。



「アスカ、いっわよ!」先ほどまでと打って変わった高剣もさながら、アスカは自分にも言い聞かせるように小さくつぶやくのだった。



「これはどう見ても使徒の攻撃ですわ。翌日は司令たちにも、着地型もついでで言うミサト。先ほどの皮肉への意趣返しらしい。」

アスカ、式号機の
出撃準備をはじめ

艦隊司令、
迎撃を命じるが効果なし
太平洋艦隊に使徒が接近

アスカ、シンジに
式号機を見せる

加持、ミサトとの親密な
過去を匂わせる

ミサト、加持と再会

司令から嫌味を聞かされる

ミサト、
太平洋艦隊司令と面会

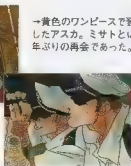
A.D.2015

02 シンジ、アスカと出会う

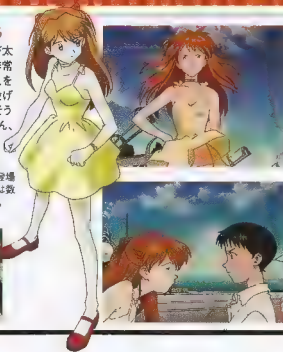
アスカの強気に圧倒されるシンジたち
翌日、ミサトを乗組とした4名を乗せた輸送ヘリが太平洋艦隊に到着した。万が一を見越してEVAの非常用ソケットを選んできたのだ。旗艦に降り立った4人を出迎えたアスカは挑発的なまなざしを少年たちに投げつける。「噂のサードチルドレンはどれ?」シンジがそうだと聞いた彼女は手をじろじろと握りしめ、「ふーん、さえないわね」と小馬鹿にしたような態度を取った。



ヘリから艦隊を見下ろすミサト。ほしやくケムス。一方の艦隊司令は、「[万が一の使いが]と感嘆しそらにつづがやっていた。」



「黄色のワンピースで登場したアスカ。ミサトとは数年ぶりの再会であった。」

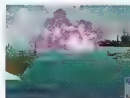


突如、スカイがめくれ、それを見たトウジは目撃行きの即乗組。

アスカからさしつけられた目撃したシンジは、もうとじてしまおう。

06 太平洋艦隊司令使徒が接近

突如、洋上の艦隊に衝撃が走った。「水中衝撃波! 爆発が近いわ!!」甲板へ駆け上がったアスカたちが見たのは爆発炎上する護衛艦と、水上に立ち上る巨大な水柱だった。新たな使徒が現れたのだ。デッキに立つ彼らの前で、水中からの見えざる攻撃を受けた護衛艦が次々に沈んでいく。ところがアスカは怯えるどころか、これは自分の力を見せ付ける絶好の機会だと不敵に笑うのだった。



「チャーンス!」何かを企むよんな気も身が、確し手かにつぶやくアスカ。彼女が自分の実力を示す機会を見逃すはずもなかった。

突如、爆炎を放つ護衛艦。新たな使徒はこれまでのよつに第3新東京市へ進むのではなく、直接太平洋艦隊を襲撃した。



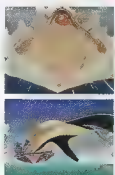
式号機の上に立ち、その力をアピールするアスカ。自分と式号機のつながりを感じ、シンジと戦ってほしいという気持ちの裏にある。



●旧伊東沖

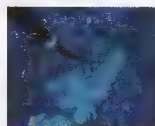
12 式号機、
使徒と水中戦を敢行

外部電源と接続した式号機に使徒が迫る。式号機は咆哮にプログレッシブ・ナイフで迎撃しようとするが、体当たりで衝撃とナイフを取り戻してしまっただけで、使徒もろとも水中へ引きずり込まれてしまう。通常装備に過ぎない白銀装束では水中戦は不利であり、式号機は海中を猛スピードで移動する使徒に引きずり回されてしまう。



エイのような姿の使徒は、その巨体で周囲を揺らせると空留の甲羅に立つような構えにのっかっていた。

使徒に引きずり込まれたEVAは海中をもちろちろと移動される。アツドリカナル・ケーブルがぐんぐん伸びていく。



11 式号機、起動

ついに起動した式号機が海原を駆け巡る。艦隊旗艦に式号機起動の報が入った。「ナイス、アスカ!」ミサトが喜びの声をあげる。止めさせようとする艦隊司令官の手をはねのけ、ミサトは出撃のコーサインを出した。だが式号機の武装は基本装備のB型、しかも内蔵電源だけでは短時間しか稼働できない。「ミサト、非常用の外部電源を甲板に用意して!」そう頼んだアスカは艦船から艦船へと次々に跳躍し、旗艦を目指した。



式号機の起動に気づいたミサトは司令からアスカを呼んだ。EVAの指揮塔まで駆け込めば、少なからず受けられる。

→真紅の式号機はバグダクションモデル。頭部には4つの光学センサーがある。



クシカキが破壊される寸前に、1ツムは艦外へ逃げた。その時、身体は艦外へ投げ出されていく。真紅の機体は宙に漂うが、電線は至速に距離を縮め、内部ではレンジがよりよき音を出している。

●第壱中学校

A.D.2015
17 アスカ、
第壱中学校に転入

翌日、学校ではシンジたちが今日の旅のことを話していた。「ほーん、顔に似合わず、いけすかん女やっただな」アスカにおもしろしたての帽子を踏まれた上、ひっぱたかれたトウジがぐちぐち。ところがそこへ第壱中学の制服を着たアスカが現れた。彼女も同じクラスへ編入してきたのである。「惣流・アスカ・ラングレーです。よろしく!」はきはきと自己紹介する彼女を、シンジたちは果敢にとられて見守るほかなかった。



黒板に名前を書き付けたアスカはクラスメイト、英語を向ける。シンジにとっては今後の進路を予感させる機会となった。

今し方までさんざん悪口を言っていたアスカが制服姿で現れたのを見て、トウジたちは言葉を失ってしまっただ。



アスカ、第壱中学校に転入

ゲンドウ、アダムを入手

加持、NERV本部に出頭

太平洋艦隊残存艦艇、新横須賀港に入港

式号機、使徒を殲滅

式号機、使徒の口をこじ開ける

式号機のシンクロ率が急上昇

戦艦2隻を自沈させ、使徒に対するトラップを形成する

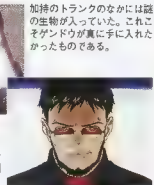
ミサト、使徒殲滅のための作戦を立案

A.D.2015 ●NERV本部
16 ゲンドウ、アダムを入手

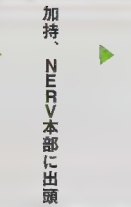
その頃、加持はゲンドウの公務室にいた。「いやや、波乱に満ちた船旅でしたよ。やはり、これのせいですが、加担がトランクを開けると、そこには胎児のような生物が収められていた。すでにここまで復元されています。硬化ベークライトで固めてありますが、生きています。人類補完計画の要ですね。真面目な面持ちで告げる加持にゲンドウが応じた。「そうだ。最初の人間、アダムだよ」



特殊押箱で固められながらも生きて、という胎児。ゲンドウはなぜかそれを「アダム」と呼ぶのだった。



黒板に名前を書き付けたアスカはクラスメイト、英語を向ける。シンジにとっては今後の進路を予感させる機会となった。



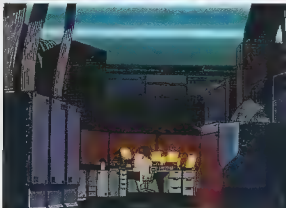
ゲヒルン

組織の誕生とその概要

「GEHIRN」 ドイツ語で「脳」「頭脳」を意味する名の調査組織。その名の通り多様な分野の英知が集う研究機関である。その設立時期は不明だが、壮大な目的に向けた調査組織であるならば、一朝一夕で誕生したとは考えにくい。ゲヒルンを後援する秘密結社ゼーレは、「裏死海文書」、南極の巨人など、セカンドインパクト以前よりオーパーツの探求と調査に力を入れている。このことから、ゲヒルン（時代によっては別名）はゼーレの調査組織として結社の創成より脈々と存在していたとも考えられよう。

研究を旨とするゲヒルンは、第七世代の生体コンピュータの実用化と、南極で発見された巨人のコピーと復元を目指していた。これは、「裏死海文書」の預言にある使徒という存在への対抗策である。さらには、人類補完計画というゼーレの目的に合った計画も提唱し、計画遂行のための下地を整えていく。

永き研究を経て、かねてよりゼーレの追い求めていた理想が実行可能な段階へと至る。ゲヒルンはゼーレが求める計画を遂行可能な人材、技術、装備などを揃えるための準備組織という側面を持ち、これらがすべて整った時点でゲヒルンは即時解体され、ゼーレが推進する人類補完計画を主軸に、全計画の遂行組織である特務機関NERVへと移行。名を新たにただけではなく、使徒との戦闘を主とする武装機関へと組織の性質をも変化させていく。



調査機関

■ゼーレ

■NERV

■国連



全世界規模の影響力を持つ巨大秘密結社。人類の新たな段階を模索し、そのための調査組織ゲヒルンを設立、後援した。



パレットライフル

PALLET RIFLE

エヴァンゲリオンの主兵器に採用されたパレットライフルは、劣化ウラン(ウラニウム)を主原料とした合金を弾頭として使用する射撃兵器である。しかし劣化ウランは化学的な毒性を有する重金属であり、この弾頭の使用の是非を巡って激しい論争が起こったこともある。そのような危険な弾頭を市街地(しかも第3新東京市といった行政的にも重要な都市部)で使用するにはかなりのデメリットを覚悟する必要があるだろう。それでも採用に踏み切ったことからは、使徒殲滅に対する不逞な決意を読み取ることができる。ならば劣化ウラン弾のメリットとデメリットとは何なのか。それを知るためには、まずこの弾頭の特性を理解する必要がある。

発射された弾頭の貫通力は、弾頭の質量と命中時の速度に影響される。そして同じ速度の場合、質量が重いほど貫通力が増すのである。劣化ウランは鉄や鉛よりも重く、それだけでも高い破壊力が期待できることになる。また通常弾頭が命中時にひしゃげてしまうのに対し、劣化ウラン弾は衝突の熱で表面が溶けて鋭利な形状に変化するため、貫通力に優れるという特性を有している。強固な防御力を誇る使徒への攻撃に劣化ウラン弾が採用されたのは、以上のような特性があるためである。

その一方、劣化ウラン弾は環境や人体に悪影響を及ぼすという報告が挙げられている。着弾時の熱で燃焼した劣化ウランは酸化ウランの微粒子を周囲に飛散させる。その酸化ウランが放射する残留放射能が環境汚染や健康被害を引き起こすというのだ(これには反対意見もあるが、かつて劣化ウラン弾を用いた戦場からすなわ放射能降雹と思われる症状が多数報告されていた)。さらに劣化ウランは重金属であるため、水銀のような重金属と同様、重金属中毒の原因になりうるのである。

戦闘で用いれば非常に有効だが、健康被害の要因にもなる——ふたつを天秤にかけたNERVは、使徒殲滅のために武器としての特性に注目した。そして使徒との戦闘が発生するたびにパレットライフルが持ち出され、劣化ウラン弾がばら撒かれることとなったのである。唯一の救いはパレットライフルの使用が第3新東京市内に限定されていることであり、汚染地域が最小限で済んだというところだろう。



RELATED MATTERS

- ① エヴァンゲリオン
- ② EVA初号機
- ③ 第4使徒シャムシエル戦
- ④ 二点同時発着空母降参
- ⑤ EVA力起動



使徒殲滅を目標とする1工ウーン、オン出に開発された射撃兵器。その基本的な特徴は、発射時の運用を重視し、制作者

電磁気力を駆動して生成されたEVA専用弾薬「バレット」

基本的な原理と構造

EVA用に開発されたバレットライフルはヒトが扱うライフルと類似している。とはいえ射出システムは大きく異なり、このシステムこそがバレットライフルの特徴なのである。通常のライフルは火薬の燃焼によって発生するガスで弾頭を加速する。そのため音速(約340m/s)を上回することは難しく、貫通力にもおのずと限界が生じてしまう。一方のバレットライフルは弾頭の加速に電磁気力を利用している。弾頭後部に封入したプラズマをバレル内の電磁場で加速し、高まじまでの射出速度を実現するのだ。つまりバレットライフルは一種のレールガンであり、その破壊力は火薬式銃器の比ではない。

バレットライフルを構えた初登場。このようにライフルそのものも大きさが常識を超える。



電式「バレット」プラズマ銃に無数の弾頭を射出し、その反動も大きく、正確な照準が必要となる。

一連射撃を繰り返す火力と、敵の意思疎通の両立を実現

実戦での運用法

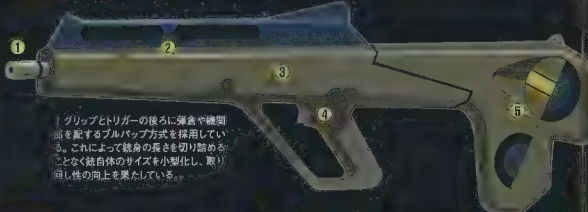
不可侵領域として絶対的な防御力を持つA.T.フィールドを使役が震源した場合、いくらバレットライフルでも相手に傷を負わせるのは無理である。そのためEVAは、まず使役のA.T.フィールドを中和できるまでの距離に移動し、フィールドを無効化してから攻撃を仕掛けるという二段構えの戦術を採る必要がある。この戦術ではおのずと接近戦を強いられる機会が多く、長距離からの射撃戦を避けられることは、バレットライフルの火力で使役を屠ることは十分に可能である。

発射機の右側に設置されているがライフルケース(左側には射撃補助)の上部には鏡を待ち受けた。



遠射性能に優れる反動、爆発で弾頭を失ふことも、だがこれは戦闘に慣れないパイロットのミスである。

バレットライフル/各部名称と構造



1 グリップとトリガーの後ろに弾倉(弾頭部)を収めるバルブタイプを採用している。これによって銃身の長さを切り詰めるとなく銃自体のサイズを小型化し、乗り回し性の向上を果たしている。

●● 銃口

加速された変性ウラン弾が最終的に射出される部分。周囲にいくつか穴が開いているが、これは弾頭を加速するために使用するプラズマを逃がすための処置である。これによって通常の火薬式ライフルと同様、射撃時にはマスル・ブラッシュが発生することになる。

●● 冷却装置

超高速での射出スピードを実現したバレットライフルは、それだけ銃身温度が上がりやすく、これを放置すると銃身の歪みを招き、照準のブレや銃身の破壊を招きかねない。それを防ぐためには銃身に沿うように設置された冷却装置で、銃身を効率的に冷却する必要があるのだ。

●● 銃身(電磁加速レール)

電磁加速ターゲットに続いて多化ウラン弾に二次加速を施すためのユニット。内部にはレール上になったコイルが配されており、ターゲットから送られた弾頭は、コイルが発生する電磁場の引力と斥力によって加速される。またこの部分で弾頭の軌道修正も行なわれていると思われる。

●● トリガー

銃弾を射出するためのスイッチ。人間用の銃とまったく同じ形状と機能を有するが、EVAによる操作を前提としているため、サイズは桁違いである。グリップ部分は射撃を待たぬトリガーガード付き。さらにトリガー後部にはセーフティロックも設けられている。

●● 電磁加速ターゲット

銃体内には弾倉と共に、弾頭が一次加速を行なうためのコイル——電磁加速ターゲットが内蔵されている。弾倉から送り込まれた弾頭はこのコイルに沿って往復するうちに充分な加速力を得、銃身に送り込まれることになる。この部分がバレットライフルの心臓部である。

真ここで解説しているのは長銃身のバレットライフルだが、片手持ちのEVA専用銃も原理的にはまったく同じである。ただし電磁加速ターゲットの半徑や銃身に配された二次加速コイルが長い。また、バレットライフルはこの加速速度を達成するとはできない。

運搬 携行方法

バレットライフルは第3新東京市に用意された「兵装ビル」と呼ばれる武器庫に保管されている。そして戦場に向かったEVAが近接の兵装ビルから必要に応じて取り出すというのが基本的な運用スタイルである。しかし兵装ビルがない場合や第3新東京市以外で戦闘が発生した場合、専用のライフルケースが使われる。ケースはバレットライフル丁がギリギリ収まるほどの大きさで、EVAの胸部装甲に直接マウントできる構造になっている。



戦闘中にバレットライフルが破壊しても兵装ビルから予備を取り出して戦場を駆け回り可能。このように数機は第3新東京市の各所に用意されていた。

運用履歴

第4使徒との戦闘を皮切りに、幾多の実戦でバレットライフルは運用されたが、実際にこの兵装で目撃されたのは第9使徒のみである。これは使徒のA.T.フィールドの前に、多化ウラン弾の推進力でも届かなくなったため(直下からの攻撃を受けた第9使徒はフィールドを開いていなかったと思われる)。とはいえバレットライフルの運用が合わせられたことはなく、逆に遠射性能を活かした牽制用としてさまざまな場面で用いられた。

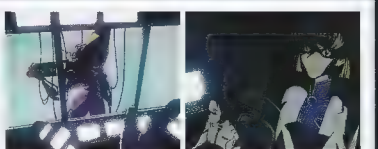


A.T.フィールドや使徒の外殻装甲に阻まれることの多いバレットライフルだが、第9使徒との戦闘では多化ウラン弾の貫通力が存分に発揮された。

特記事項

射撃訓練用シミュレーター

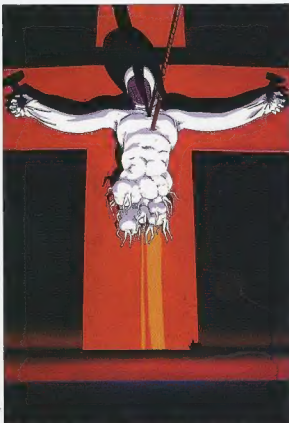
NERV本部にはEVA専用の射撃シミュレーターが用意されている。一見したところ何の変哲もない部屋だが、エントリープラグのスクリーンに情景や弾道を投影することで実戦ながらの訓練を行なうことができる。訓練内容は多岐に達していると思われるが、過去に戦った使徒のデータ再現してプログラムを作成することもあったらしい。そのうちシミュレーターとはなるとは異なる高難度部屋に入るものもある。



EVAの射撃姿勢や挙動は外部からモニターされており、それがシミュレーターにフィードバックされる。そのため模擬までリアルな臨場感を体験できるのだが、使徒の射撃データが不足していたため、あまり正確の値を出るものではなかった。

使徒

NERV本部のある第3新東京市を目標として襲撃する、該の生命体の総称。使徒がNERVに襲来する目的は、第3新東京市地下のジオフロント、ターミナルドッグに閉閉されているというアダムと接触し、サードインバウトを引き起こすことであるとされる。[真死海文書]においては、17体の使徒の存在が言及されており、それぞれがキリスト、ユダヤ教の伝承等によって由来する天使の名を持つ。その形態は多岐に達し、巨人型や水棲型などの生物的なものから、正八面体やマイクロマン等の非生物的なものまで様々であり、それぞれ異なる能力を持つ。そのため人類とはかけ離れた生命体に見えるが、その固有波動パターン(の99.89%までは人間の遺伝子と一致しているという分析結果が確認されている。使徒共通の特徴として独自の波動パターンを有しており、パターンが育てれば使徒と判定される。また、永久機関とされるS機関を持ち、その活動に限界はない。ただし、コアと呼ばれる赤い球体を体内外に持ち、それを破壊されることにより活動が停止する。そのほかA.T.フィールドと呼ばれる位相空間を展開する能力があり、通常兵器での攻撃はこれを突破することが物理的にほぼ不可能なため効果も成さない。このため、同じくA.T.フィールドを展開することにより使徒の防護を侵食および中和することが可能なEVAのみが、人類が使徒に対抗する唯一の手段である。これら使徒のうち、第3使徒サキエルから第17使徒タプリスまでは第1使徒アダムから生まれたとされ、第18の使徒はリリン、“ヒト”であるという。なお、キリストにおける「使徒」はイエス・キリストの高弟を指す。この言語のギリシア語は「apostolos」であり、本来の語義は「使者」である。キリスト教初期の文書「ルカ福音書と使徒行伝」においては、12使徒で構成されたイスラエルにちなんで、イエスの弟子たちの中リチに選ばれた12人が使徒とされている。イスカリヨテの裏切りがキリストを裏切り、12使徒を脱した後は、マティアスという人物が加えられた。また、広義では重要な役割を果たした宣教師のことも指す。ANGELも参照。



第12使徒はリチであったと推測されており、明言はされていない。

使徒、襲来

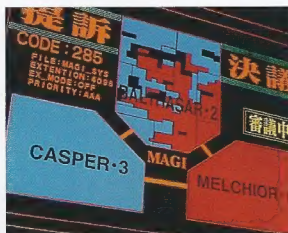
第零話のサブタイトル。英文タイトルは「ANGEL ATTACK」であり、サブタイトルの直訳となる。



セカンドインバウトから15年が経過し、ようやく復興したかに見えたと世界に突如として使徒は現れた。

使徒、侵入

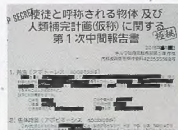
第拾参話のサブタイトル。英文タイトルは「LILLIPIUTIAN HITCHER」で、この「LILLIPIUTIAN」とはスウィフト著「リリプー旅行記」に登場する小人国の住人のことである。「HITCHER」は「乗っ手」を意味すると考えと、マイクロマンサイズの第11使徒イロウルを、ガリバーを地に落とされた小人に例えているのだから。



イロウルを小人に例えているとすると、巨人ガリバーにあたるのは復讐されたMAGI。いわばNERVのものであろう。

使徒と呼称される物体及び人類補完計画(仮称)に関する第1次中間報告書

NERV総務局総務部第二課が作成し、日本政府に提出した使徒の資料。内務省調査室保持資料422535568号。日本重化学工業共同体(いわば、その背後にいる日本政府)などが、情報公開法にもっとづき提出を迫っていたために作成された。第4使徒シャムシルの分析結果が含まれる報告書と思われるが、加特リョウジによりダミーの情報混ぜられていた。



加特リョウジが作成したと思われる報告書は、大部分に黒線が引かれていた。

シナプス

神経細胞(ニューロン)間の伝達部。神経細胞で電気信号が発生した際、細胞間へ神経伝達物を放出し、受容体も

変化させることで細胞間の情報伝達を行なう化学シナプスと、イオン等を通過させる分子によって接離された細胞間に、直接イオン電流を流すことによって細胞間の情報伝達を行なう電気シナプスの2種類がある。EVAの起動実験時には、神経接離をモニターする画面上に「SYNAPSE-L」「SYNAPSE-R」と表示される。



シナプス以外にも神経に関する様々な部位がモニターされている。EVAの起動において、神経接離は非常に重要な作業であることが取れよう。

シナリオ

ゼーレが思い描いていた、人類補完計画に向けてのシナリオ(タイムスケジュール)。「真死海文書」に記された予定とも異なる。碓ゲンドウの行動に不審を覚えた人類補完委員会は、「君が新たなシナリオを作る必要はない」と釘を刺しており、ゲンドウもまた、ゼーレとは異なるシナリオを描いていたようだ。なお、J.A.暴走事故もNERVの真工作によって仕組まれたシナリオであった。



アメリカ第2支部とEVA4号機の消失事故はシナリオにない出来事であり、さらにEVA4号機によるS機関損取も、シナリオと大きく異なっていた模様。

シナリオB-22

使徒やNERV絡みで発生した極秘事項に類する出来事隠蔽する際、別の出来事に置き換えて発表するためのダミーシナリオのひとつ。事件ケースごとについたシナリオが用意されているものと思われる。第3使徒サキエルの襲来およびEVA初号機との戦闘(第1次直上会戦)という事実を隠蔽するため、NERV広報部によって用いられた。政府緊急記者発表で、国連軍が対処したと報告が一般発表されている。

死に至る病、そして

第拾六話のサブタイトル。「死に至る病」は1849年にセーレン・キルケゴールが著した哲学書である。「死に至る病」は「絶望」を指し、これは新約聖書ヨハネによる福音書11章4節「ラザロの復活」において、イエス・キリストが「ラザロは死にたが、さぞこの病は死に至らず」と言ったこと由来している。また、英文タイトル「Spitting of the Breast」は邦訳すると「乳房の分裂」。これは心理学用語で、口蓋裂の幼児が、母親の乳房が自らに満足し迫害を与えるものというアンビバレンスから発生する不安に対処するため、乳房を「良い乳房」と「悪い乳房」に分けてしまう心理的過程を指す。

E

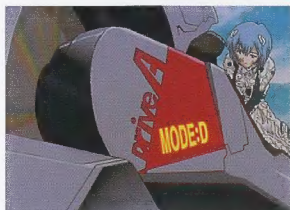
エクストラシート
xtra Sheet



桜シンジにとってのEVAはアンビバレンスであり、まさに「分裂した場所」そのものであるといえるだろう。

自爆プログラム

第16使徒アルミサエルの戦闘において、綾波レイが使用したプログラム。プログラム入力後、シートの背面部に収納されたレバーを引くことによりEVAの動力力が暴走し、臨界点を突破して爆発するというプログラムが作動するようになっている。プログラム作動後、操縦席のディスクドライブAには「MODE:D」の文字が表示。この「D」は「Destruction」または「Destroy」の頭文字と考えられる。



レイは使徒と融合したEVA零号機を自爆させることにより、使徒の飛滅を図った。

シミュレーション

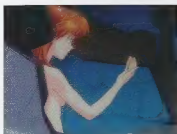
現実の状況を模したモデルを用いて実験を行うこと。EVAに乗ってまだ間もない頃の桜シンジは、インダクション・モードの練習のため、ヴァーチャル・リアリティによる戦闘シミュレーションを繰り返していた。ちなみに仮想敵は第3使徒サキエル。



戦闘シミュレーションで、シンジはEVAの説明を受けながらインダクション・モードの訓練をしていた。

シミュレーションプラグ

オートパイロット実験の際に使用した実験用エントリープラグ。操縦体に挿入、接続して使用される。操縦資格者たちはこのプラグに全機で入り、プラグスーツの補助なしに身体から直接ハーモニクスを行なった。



プラグスーツを装着して操縦したときは感覚が大きく異なるらしく、操縦資格者たちは戸惑いの様子を見せていた。

自滅促進プログラム

第11使徒イワルの排除を目的として作成されたコンピュータプログラム。爆発的な進化を続ける使徒の特性を逆手に取り、進化をより促進させることにより、その終着点である死に至らせるというものであった。MAGIシステムのカスパーを使徒に直前させた、逆ハッキングをすることにより送り込まれる。



製作者の手でカスパー内部に貼られていた裏コードを利用することにより、赤木リコは使徒のカスパーを侵入し切る前に自滅促進プログラムを完成させることに成功した。

ジャイアント・ストロング・エントリー

一般的には「ジャイアント・ストライド・エントリー」と呼ばれる、スクーパーダイビングにおいてのエントリー方式のひとつ。水深が十分にあり、ダイブする水面に近い場合の方式であり、海に飛び込む際両足を交互に開いて飛び込むというもの。EVA武号機が浅瀬山火口に着陸の際に急流・アスカラングレーがぶち付けて使用したが、特に効果があるわけではない。



半ばぶちけながら浅瀬山火口へと突入したアスカとEVA武号機だが、この後に展開された作戦は過酷なものとなった。

シャノンバイオ

マルドック機関につながる108の企業のうち、107番目のダミー会社と判明した企業。外資系資本の生命カル会社ということになっている。所在地は、京都府京都市下京区四条松島場東入ル。



シャノンバイオの登記簿の取締り役には、碓ガンドウ、冬月コウジ、キムラ・ローレンツァの名が書かれている。

シャムシエル

第4の使徒。目玉模様の腹帯を有する頭部と紡錘形に近い胴体部を持ち、頭部と胴体部にはコアが埋め込まれている。また、コアの両側に1対の前肢を持つほか、胸部にも4対の昆虫状の脚部を持つ。第3使徒サキエルの襲来より3週間の時を経て出現、海上より低高度を飛来して第3新東京市に侵入した。戦闘時には、胴体部を地面に対して垂直にし、脚部を胸部に収納、頭部を90度前傾させるという形態を取り、前肢の先端部より展開される光の触手を主な攻撃方法とする。第2次直上会戦においてEVA初号機と交戦、同様の腹部に触手を貫通させるものの、プログレッシブ・ナイフによりコアを破壊され、沈黙した。なお、この使徒はコア以外の損傷がほとんどなかったためNERVにサンプルとして採取されることとなり、その研究、分析の結果、使徒の固有波形パターンが99.89%人間の遺伝子と酷似していることが判明した。なお、シャムシエルはユダヤ、キリスト教の神話や伝承における天使の名で、「神の力強き息子」と称される第4天の支配者。エデンの園を守護する天使の王子でもあり、モーゼを連れて天国を案内したとされる。「光輝の書」によれば365の軍団を率いるとされており、また、「エノク書」においては「星」を司る天使とされ、墮天使のひとつにも数えられている。



シャムシエルが有する触手は、EVA初号機を持ち上げて地面に叩きつける等の使用方法もされており、相当の強度を持つものと推測される。

集光ビル

地上の光を集めるために建造されたビル。巨大な鏡面を持つこれらのビル群が太陽光を集め、光ファイバーにより地下に送り込むことによって、ジオフロントは地上とほぼ変わらない明るさが保たれている。

18番目の使徒

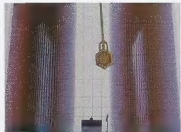
第18の使徒はリリンとされる。リリンとは、第17使徒タブリスこと渚カヲルが人類を指して言った言葉であり、また、葛城ミサトも人類を指して第18使徒と述べていた。人類もまたほかの使徒と同様、生命の起源たるリリンより生まれたものであったという。なお、リリンはリリムとも称され、リリスの娘である夢魔の名でもある。



NERV本部を武力により直撃占拠し、問答無用の殺りくをくり広げるなど、ある意味では人類こそが最後の使徒であったといえよう。

首相官邸執務室

首相官邸内にある、日本国首相の執務室。ゼーレがNERV本部の直轄占拠を行っていた頃、首相とその秘書は、第3執務室でNERV本部施設の地理についての会議をしていた。



机のみ置かれた広大な執務室内。用途は不明だが、巨大な椅子があり、静寂が際立つ。

瞬間、心、重ねて

第九話のサブタイトル。英文タイトル [Both of You, Dance Like You Want to Win!] の邦訳は「ふたりとも、勝利を求めるならば踊りなさい!」となり、第7使後イサウェル攻略のため、碇シンジと惣流・アスカ・ラングレーが音楽に合わせながら完璧なデュオによる攻撃パターンを覚える特訓をしていたことを指していると思われる。



シンジとアスカの心が重なった瞬間に、イサウェル攻略作戦は成功することとなった。

巡洋艦

EVA式号機の移送を護衛した国連軍太平洋艦隊の構成艦艇。また、ロンギヌスの核を回収した空母の護衛にも用いられており、視認性に優れた展望室を持つ。



南極大陸にロンギヌスの核を回収に来た、碇ゲンドウと冬月コウゾウが乗艦していた重巡洋艦。

昇進祝い

葛城ミサト一尉が三佐へと昇進した際、その祝賀を目的として開かれたパーティ。ミサトの昇進はいち早く気付いた相田ケンスケが企画し、ミサト宅にて行なわれた。参加者はミサトをはじめ、碇シンジ、惣流・アスカ・ラングレー、鈴原トウジ、相田ケンスケ、洞木ヒカリ、加持リョウジ、赤木

リツコの8人とベンベン。加持とリツコについては遅れて参加。また、綾波レイもアスカが誘ったもの断つたらしい。



主催である三佐は、「聖い佐官様!」と手書きされたタスキをかけた。おそらくケンスケの手によるものであろう。

女性オペレーター

主に中央作戦司令部のアンダーフロアでその姿が確認できるNERVの女性オペレーターたち。主な業務内容としては各種端末の操作となり、それにより作戦行動や実験といった活動をサポートしている。



女性オペレーターたちの顔がこれには比較的若いものが多いようであり、そこからNERVが実力主義者という点が垣間見える。

所長室

人工進化研究所にある所長室。碇ゲンドウがその部屋の主であり、訪ねてきた冬月コウゾウと会見した。部屋の扉には「CHIEF OF RESEARCH」とある。



乗客中などにロックと共に「DO NOT ENTER」の文字が点する仕組みとなっている。

司令部

中央作戦室発令所司令部。中央作戦室後方の中央部にある、NERV総司令部である碇ゲンドウが座り指揮を執る席。その横には常に副指令の冬月コウゾウが控えている。発令所から一段高い位置に用置かれており、発令所全体を見渡せるようになっている。



NERVに使役機降作戦の指揮権が移行される前は、国連軍の高官3人が座っていた。

白き月

ゼーレが深カヲに語った言葉に「正当な継承者たる失われた白き月よりの使徒、その始祖たるアダム」にあることから、黒き月と同様に使徒の生命の始源たる存在、アダムの卵と考えられる。黒き月が箱根のジオフロントであったように、南極の地下にあったジオフロントが白き月である可能性は高い。なお、黒き月のことは「偽りの継承者である黒き月よりの我らが人類、その始祖たるリリス」ともゼーレは語っている。

新厚木

小田急線の発着駅。EVA3号機に寄生した第13使徒バルディエル機降作戦のあと、碇シンジがEVAに乗ることを拒否し第3新東京市を離れようとした際に、駅のエ電光掲示板に「政府専用特別急行列車R-13 13:38発 新厚木行」の文字が表示されていた。



以前シンジが暴らしていた“先生”のところにいくには、新厚木駅本から新厚木へ向かう列車を使用すると推測される。

人格移植OS

赤木ナオコ博士が開発した、第七世代の有線コンピュータに個人的人格を移植して思考させるシステム。その第1号がスーパーコンピュータMAGIシステムであり、そこには赤木博士の「科学生としての自分」「母としての自分」「女としての自分」の3つの思考パターンが移植されているという。また、EVAの操縦にも使用されている。なお、OSは「Operation System」の略であり、コンピュータの中核に在り、コンピュータシステムを管理し、アプリケーションを動かす基本ソフトウェアのひとつ。ハードウェアの管理のほか、入力デバイスからの操作をソフトウェアに反映させる、人間とハードとソフトの間を取り持つ役割を果たす。



赤木博士は人工進化研究所の地下施設において、人格移植OSの基礎理論の研究を行っていた。

シンクロ率

神経接続時の、EVAと連絡者の同期の比率を表す数値。この比率が一定値を超えないとEVAの起動は不可能であり、第16使徒アルミスル戦において、惣流・アスカ・ラングレーが搭乗していたEVA式号機は、シンクロ率が二桁を切っていたために動かすことができなかった。また、数値は四

一人物でも精神状態等により上下し、表裏的な肉体的不調には左右されない。なお、碓シンジがEVA初号機に取り込まれた際は、シンク口率が400%を超過したこともあった。



シンジがEVAに初めて搭乗した際のシンク口率は41.3%で、これは相当の高数値であるとされている。

神経接続

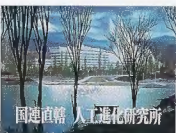
脳神経に満たされたL.C.L.を触媒とし、インターフェイス・ヘッドセット、プラグスーツ等を介して、EVAと連絡者の神経系を擬似的に一体化させること。中枢神経系や制御神経を介して神経パルスを変換、EVAの人工神経と連絡者の神経の双方に交流させ、信号伝達を行なっている。また、神経接続の強度変更や切断については、発令者からの操作も可能。なお、脳神経系における神経パルスの流れがEVAから操縦者へと向かった状態は“パルス逆流”と呼ばれる、EVAの潜在意識が流入し、精神汚染の危険性が増大する。



EVA零号機の脳動実験の失敗などから、神経パルスが逆流することにより、暴走に陥る危険性も高まるものと推測される。

人工進化研究所

NERVの前身たるゲイルンのコモフラージュとして用いられた、箱根にある国連産種の研究施設。少なくとも2003年には設立されていた種子で、所長には碓ゲンドウが就任している。



声ノ淵畔に建設されているこの施設は、外観だけ見ても箱根の風景を帯るようである。

人工進化研究所 3号分室

かつての人工進化研究所の一分室。NERV本部、セントラ

ルドグマ内に残されている。その際にはゼーレのシンボルにも似たマークが記されており、目の位置には研究内容らしきものがある。また、内部の床や壁面には、「Strangeness」（素粒子物理学での量子数）、「TOP」「BOTTOM」（クォークを構成する階層名）といった、素粒子物理学関連と思われる落書きがされている。なお、この分室は放棄レイの生まれた場所であり、コンクリートむき出しの壁、放棄された靴履したビーカーや薬品類等、彼女の部屋と酷似した内観となっている。レイの深層心理が光と水により構成されているのは、この場所のイメージが強く残っているためらしい。



病室にも似た分室の内部。多くの設備にシートカバーがかけられていないところを見ると、長い間、人の出入りはなかったようだ。

新庄隊

戦時自衛隊制部隊の一部隊。戦時自衛隊によるNERVの直接占拠が行なわれた際、セントラルドグマ第2層を制圧した後に、無線通信で頼馬廬と共に速やかに下層へ突入するようになるとの命令を受けた。

人造人間

人間の手で、人間を種として製造された存在のこと。EVAはこの人造人間であるとされる。大別して機械的な特徴を持つ機械的人造人間と、生体的な特徴を持つ有機的人造人間の2種に分類されるが、EVAについてはこの中間に属するものと考えられる。



遠景に設置された零号機のプロトタイプには、骨格らしきものや人工骨格が見える。EVAが生体と機械の中間にある人造人間であるという証明である。

新箱根湯本駅

第3使徒シャムシムシ工機後と第13使徒/ルディエル工機後、第3新東京市を離れようとした際に碓シンジが2度目にとりた

用した駅。第2新東京市などへ向かう際、第3新東京市の発着駅であると思われる。



その外観は、現在の箱根湯本駅と比べて多少変化があるようである。

シンペリン

国連軍太平洋艦隊の巡洋艦の名称。第6使徒ガゼル工機の襲来によって真つ沈黙した。なお、「シンペリン」はシェイクスピアの戯曲であるロマンズ劇。

新横須賀

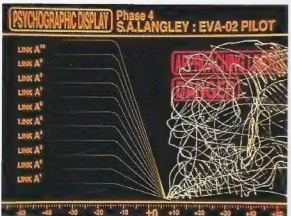
太平洋艦隊の護衛のもと、EVA五号機と同種艦艇である悠流・アスカ・ラングレーがドイツより日本に運び込まれた際に使用された港。場所は旧小田原になる。



第6使徒ガゼル工機の襲来を切り取り生き残った艦隊が、この新横須賀港に到着した。

心理グラフ

操縦連絡者の心理状態をグラフ化したものと思われる。第15使徒アラエルがアスカに対して心理攻撃を展開した際、この心理グラフが限界に達したと、伊弉ガメが報告していた。



アラエルの心理攻撃により精神回路に侵食をかけたアスカの心理グラフはスタスタとなり、随く崩壊したもたっていた。

人類補完委員会

NERVに対し、人類補完計画のスケジュール進捗を指導および監査することを主な任務とする。国連産種の問題絡み、「裏海海軍」に記載されたゼーレのシナリオに基づき、計画を進めている。また、NERVの予算承認、EVAの出動要請等も行っている模様。NERV総司令である碓ゲンドウに対しては不信任感を持っているらしく、意見の対立を見せることも多い。